

たわわ



NPO 法人地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2012年1月28日

120号

NPO 法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

年頭に当たり 会員の皆様へ

昨年の課題をひきついで



日本全体が、厳しく冷え込む日々です。豪雪の便りも心配になります。昔の冬はいつもこんな風だったと思うのですが、暖冬が続いていたので、ちょっと身に応えます。それに猛威をふるうインフルエンザです。

高齢の方から幼児まで、そして受験生や障害者たち... と、守らねばならない人たちを抱える家族は、毎日神経を尖らせている事でしょう。

年明け早々にも、年賀のお便りをと思いつつ、今年も一層あわただしく、今日になりました。試練と課題の多い昨年を引き継ぎ、この輝かしい辰年が、何とか先を見通せる歳になるよう、頑張りたいと思います。

* * *

この『地域で生きる障害者を支える会』が活動を開始してから16～17年になりますが、そのまえの家族会や、「将来を考える会」などの活動を考えると、この横浜の港北の地で、少し“頑張り”初めて25～6年にもなるのでしょうか。

家族と少しの支援者で動いていた私たちを支えてきたのは、「重い障害があったって、こんなに大切に、かわいい人たちの存在が、もっとちゃんと認められて、もっと必要な支援があれば、もっとよくなるはずだ、そのためにもっと頑張らなくては...」という思いでした。障害者は、一般の市民の中ではほんの一握りの数でしかなく、中でも重度障害の人たちはそのまた少数なので、何事にも疎外感を感じ、皆にとって辛い日々であったと思います。

しかし「地域で生きる障害者を支える会」として取り組むようになってからは、同じ頑張りではあっても、質が変わってきたと思います。

何が必要なのか、無ければ皆で作ろうという活動にかかりました。やがて、続く人たちへの道しるべとしての役割もできました。

制度はいま、良し悪しを別として全てを用意してくれるものではなく、活動を助成してくれるもので、今でも「もっとこうして欲しい、もっとこうあるべきだ」という願いは強いのですが、それは、活動していくときに初めて現実味を帯びた主張となり、原動力ともな

るのだとおもいます。

大切なのは、すでにある制度の枠に縛られた考えではなく、現実には生きている人たちにとって『何が必要なのか、どうしたらよいのだろうか』という、これまでの悩みの上に立った自立の精神なのではないでしょうか。

どんな事でも、それが必要な事である限り、実現させたいという気持ちで望みたいし、そこでこそ、会員・賛助会員の皆さんの思いも実現するのだと思います。そして一人でも多くの会員に支えていただけるよう、皆で努力しましょう。

どうぞ、今年もよろしくお願いいたします。

よつばホーム運営委員会設立10周年記念 交流会 楽しく終わる



さて、先月にもご案内したとおり、グループホーム『よつばホーム運営委員会』が設立して間もなく11年に入ろうという今、記念の交流会がありました。

日ごろお世話になっている、地域の皆様や、近隣のグループホームの仲間たちが集まり、ささやかながら、暖かいパーティーとなりました。

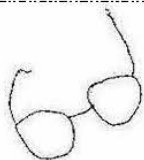
いつも、一つの家として、地域の中で住まう人たちには、式典などの形は、あまり似つかわしくありません。

ただ、入居するまで親元で守られてきた重度の障害をもつ人たちが(誤解を恐れず言えば)理屈も何もわからぬまま、家を離れ、少しずつとはいえ生活を変え、ストレスと戦いながら今ここまでできたことに対して、心からの敬意を表したいとおもいます。その意味で楽しい交流会になりました。

実行委員会の人たちが心をこめたかったのは、「よく頑張ったね！これからも力を合わせて、生き生きと生活していこう！」という思いだったのです。

アトラクションタイムを構成してくださった赤瀬さんはじめ、ご出席の皆さんに対し入居者に代わり心よりお礼申し上げます。





めがねの声

◇大掃除、パソコンになるまでは...

冬休みに家に帰ってから、私の部屋や押入れの整理をしました。

私の懐かしい物がたくさんでてきました。トーキングエイドやキャノンのコミュニケーターとその小さなプリンター、ワープロ、古いパソコンやアダプター。

パソコンを始めた頃、私はマウスが使えないので、障害者用の『こねこの手』というマウスの代わりをする機械も作りましたが、とても時間がかかるので、今では直接指で動かします（註・フラット ポイントのこと）。「こねこの手」はとても懐かしい機械です。

* * *

学校にいる頃にトーキングエイドが出来て、それからはしばらく、言語の先生との勉強につかいました。私は、本などを読む事ができないので、一度トーキングエイドに文字を打ち込んで、耳から聞いて読む練習などもしました。文字盤がパソコンのようにやわらかくないので、時々手の爪が割れたり、怪我をしたりしました。でも続けました。

一度、故障をして作った会社へ持って行ったとき、母が「もう少し 改良する予定はありませんか？」と聞きますと「どうぶん かわりませんねえ」といわれて、がっかりしました。そのころは、タバコや、ジュースの販売機でも「ありがとうございました」などと、とてもきれいな声で言うようになっていたのですが、トーキングエイドはぎこちない機械の声で、もって歩くのも、私には、少し重かったからです。

* * *

まだリハセンターで言語の勉強をみていただいている頃、よく宿題や日記をトーキングエイドのプリンターで書きました。プリンターで刷った紙を ノートに貼り付けるのです。

そのときのノートもたくさんありました。開いてみるともう文字はほとんど薄くなっていて、白い紙になっていました（註・感熱紙でしたので）。私と母は大笑いしました。ほんとは、書いたときは、大変な長い時間がかかったのですが、今見ると、すっかり消えてしまって、「もう、大笑いするしかないね」ということになりました。

でも、ノートだけになってしまっても、捨てる気にもなれませんでした。そんなのが何冊もありました。

トーキングエイドは、今も持って歩けばいいと思うのですが、だんだんいやになって、たのまれてお話をするとき等いがいは、文字盤ですませています。

以前は電話も、トーキングエイドに打ち込んでおいて聞いていただいていたのですが、いまは、パソコンを教えていただいてから、Eメールをつかいます。それからいろいろな友だちとつながって、私の生活も広がったと思います。

* * *

いろいろな機械を使ってきましたが、パソコンを使えるようになったことは、一番良かったと思います。これからの夢は、私が持って歩けるほどの小さな、本や文章の読み上げの機械ができればいいなとおもいます。

大原友子

今月のよつばホーム

よつばホーム

新しい年を迎え、お健やかに過ごしのことと存じます。そして、ますます寒さが厳しくなってきましたがいかがお過ごしでしょうか。

よつばホームでは新メンバーが初めてのお正月を迎えました！

昨年の9月より入居している、高村浩人さんです。

高村さんは大きな体に優しい瞳、唇に歌を忘れず、グループホームにゴミが落ちていないか常に気にかけてくれる頼もしい男性です（^o^）

グループホームでは食事のお皿を運んだり、洗濯物を干したり畳んだり、たくさん仕事の手伝いをしてくれます。特に、洗濯物を畳むのは天下一品！

その器用な手先を活かし、角と角をぴっちり合わせ…丁寧に丁寧に…高村さんが畳んだ洗濯物は、とても美しい仕上がりになります。

高村さんは、おかわりが大好きです。食事の時にはご飯を一杯必ずおかわりすることに決めているそうです。けれどもちょっと声が小さく聞こえづらい時があるので…。

高村「（スタッフを見ながら）…お…おか…」

スタッフ「高村君なあに？聞こえないよ」

高村「おか…おかわり！」

スタッフ「なるほど！おかわりね（^o^）はいどうぞ」

というやり取りが毎日交わされています。入居当初から比べると、グループホームの生活に大分慣れてきてくれたかな… と思います。

高村さんや、もちろん今までのメンバーにも、もっと楽しく生活してもらえるように、スタッフ一同頑張っていきます。

芋ほりする高村さん♪



第2よつばホーム

1月21日によつばホーム運営委員会設立10周年記念の交流会を開催しました。

お世話になっている地域の方、以前関わってくれたスタッフ、いつも会ってる人、久しぶりの再会の人…。

様々な顔ぶれが集まったところでパーティーが始まりました。

山田さんは皆さんとの交流に『喜びすぎてしまうのでは?!』とのスタッフの心配をよそにマイペースに過ごしたようでした。

友子さんは顔の広さを活かして皆さんの案内誘導係をしたり、交流を楽しんだりしていたようでした。

阿部さんは、大好きなスイーツをはじめ、好みの食べ物をほおばっていました。そして、満腹になると『ペンの要求』が…パーティーの席でも『勉強（書き物）』をしたかったようですが、GH（グループホーム）に戻ってからゆっくり勉強しました。

皆さん寒い中お疲れさまでした。